

三重県津市

シロモチくんの特別住民票



氏名	シロモチくん	世帯主	シロモチくん
		続柄	世帯主
生年月日	平成20年4月26日		
住所	津市丸之内5番地1 津城跡内		
住民となった日	平成20年4月26日		

この写しは、特別住民票の原本と相違ないことを証明する。

この住民票はシロモチくん専用の住民票で、一般の住民票ではありません。

平成23年1月6日

三重県津市長 松田直久

三重県津
市長之印

シロモチ
くん専用

平成23年は、津城を藤堂高虎公が修築して400年目の記念する年であり、新しい津市が誕生して5周年になります。



津市のPRキャラクター

シロモチくん

高虎さんの町づくり

現在の津市の中心部の町並みは、高虎さんがその基礎をつくったといっているでしょう。

高虎さんは、それまで海の近くを通過していた伊勢街道を城の近くを通すようにして、町が城下町であると同時に伊勢参りの人でにぎわう宿場町として発展するようにしました。町の中心に城を築き、その周囲に上級家臣の屋敷を巡らせ、その外の西側と北側に武家屋敷を、東側には伊勢街道と宿場町、さらにその東に寺町をつくりました。町は、北側の安濃川と南側の岩田川に挟まれ、このふたつの川が町を守る大きな堀の役割を果たしていました。海の近くの平地にある城と町は、自然地形をうまく利用した高虎さんの町づくりの特徴がよくあらわれています。

高虎さんの城づくり

今、津の町の中心部にある津城跡（お城公園）は、本丸と西之丸の石垣が残っていますが、もともとの津城の形は、今治城と同じように、広い堀を「回」の字のように2重にめぐらせた、日本有数のとても大きな城でした。

明治時代初め頃の古い写真を見ると、北側の石垣の上には、三層の隅櫓と、それをつなぐ形で多聞櫓が建っています。

2008年の夏にお城公園の東側で行われた発掘調査で内堀の石垣が見つかり、本丸を囲う内堀の幅は80m以上あることがわかりました。

高虎さんの城づくりの特徴は、何と言ってもまっすぐに積み上げられた石垣と、城の中心部を櫓がぐるりと囲う形です。また、広い堀で防御を固めていることもその特徴のひとつです。



津城下図（寛永期）



現在の津城跡 内堀